天保集成除撰

員外

817
2
2

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

第八棚
一ノ二百四十

天保集成除撰 自貞享 全

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

東京府圖書館

舊幕府繼書

天保集成八星霜文十巻の内脱
真ふも数多有遺漏あらん事を思ひて
松平伊賀守家記中川飛騨守編集せ
憲法捷覧宮崎太一郎校合せし
憲法類集より書集彼是校合せし
うちより此脱書を大目付内目付
の右筆所にて書留おくる事のなきよう

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

なんぢたひの集を除といへども
ひろきこゝろを旨へきみのもつゐ
そこゝゝ一巻となをし
天保十三年九月

天明八申年二月
一 甲州東村六右衛門義母こと忠誠を
ほこゝゝにより出褒美銀被下らるゝ書付

同年同月
一 豆州書良村名主源後親孝行ニ付
出褒美銀被下候書付

同年七月
一 丹後國吉永村伝次郎後母孝行ニ付出褒美銀
被下らるゝ書付

国立国会図書館　タイトル『撰述格例』　請求記号 818-1
ガラス使用

寛政二戌年二月
一 評定所留役組頭外一同小使指添罷出
　 出座申し出書付

同年三月
一 諸家留守居寄合之義近親ニ而留守居
　 中当番ニ成る申し出書付

同年四月
一 本所松坂町安藤右膳妾事病気
　 全ニ付下ゲ申し出書付

同年六月
一 青木義助後生願中之
　 ニ付中退散　御免被仰出候
　 御坊主

寛政二戌年九月
一 蓮光院様御位牌御用相勤ニ付大僧都大
　 銀子被下ゟ申し出書付

寛政二戌年十月
一 毎年大晦日ニ死ニ候家門改礼文来年書前
　 ニ出ゟ申し遣書

寛政六寅年七月
一 增上寺
文昭院様御霊屋御修復
御用ニ付書物御達書

寛政九巳年九月
一 寺社奉行ゟ人別帳
御宮ゟ御役ゝ御尋
御城ゟ有来之書物
寛政九巳年十二月
一 紅葉山
常憲院様
有徳院様御霊屋御修復
御用ニ付書物

寛政十年午三月
一 市谷向ゟ給ゝ者ゟ市谷御会所ゟ
御下ゝ書付

寛政十年午八月
一 浅明院様ゟ法会中
大猷院様御霊前ゟ集議書
御達書

享和二戌年七月
一 流罪ゝ女中ゟゝ
口達書

文化元子年六月
一 代官手附之者御尋ニ付
答之通ニ而申書付
文化二寅年十月
一 御勘定吟味役ニ人ニ而琉球人応接不物
之儀ニ而ハ無之ニ付書付
文化四卯年二月
一 野州上川崎村百姓逸八後家之内男始末ニ
付ニ而ハ無之ニ付書付

文化六巳年十月
一 十組問屋行司共ニ而
取計之儀ニ付ニ而ハ
仰付ニ而ハ無之ニ付書付
文化七午年五月
一 対馬守屋敷ニ而
可有之ニ而ハ
同年同月
一 靖大名之外対馬守屋敷ニ
逗札病中滞留ニ
成ニ而ハ無之ニ付書付

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

同年十月
一 浅草広義寺代深誉慶伴新井孝義父母ニ
孝心をもとしめニ付巻物書付
同年十二月
一 香林院権僧正御位牌古用お勤ニ付大佛師お進ニ
銀子法不ニ付書付
文化十酉年二月
一 日光古門跡上京留守中留役中勤痛候
ニ付旨ニ書付

文化十酉年七月
一 日光
御宮古別當大楽院ニ同大ニ
ニ付旨ニ書付 但付旨ニ書付
文化十酉年七月
一 日光
御宮古別當大楽院儀古別
御免ニ旨ニ書付
文政二卯年十月
一 明十又日古礼ニ
右大將様 御参詣ニ付而
発ニ不及旨ニ書付

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

文政元年二月
一 諸行之儀御附紙之通被
仰出書取
文政元年六月
一 紅葉山
御霊舎御祭礼之儀御附紙之通
仰渡書取
文政二未年四月
一 右同断書取

文政九戌年九月
一 寺社奉行之人明廿一日紅葉山
御宮ゟ御使ニ而被
仰渡書取
文政十亥年六月
一 蓮明院儀洞峰之号勝手次第
文政十亥年閏六月
常憲院様
有徳院様
孝恭院様 御位牌御
一 法事等仰遣ニ而被
仰渡書付

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

文政十子年十月
一 香琳院権僧正 御名代として
御参府 御機嫌伺ニ付口書有

天保四巳年八月
一 六代宮池田侯帰国ニ付名代として
ニて御暇ニ付参上口書有

天保四巳年十月
一 紀伊侯徳川治宝薨去ニ付名代として
弔詞ニ付参上口書有
御免口書有

天保四巳年十月
一 右同人儀御勘定奉行ニ御用遠中付御救物方行下ル
口書有

天保五午年二月
一 女 御霊屋ニて外ニ
御代参ニて御使番ニ而遣書

天保六未年閏七月
一 銀吹所大黒役御免ニ付
御勘定ニ付ニ而一代帯刀
口書有

天保七申年三月

一 年忌法楽人数代下向之儀ニ付
伺書面

天保八酉年六月

一 房州上総表村百姓文兵衛妹まき儀女ニ
多分之盗賊を頼受宿ニ而も盗賊之始末等相尋し事ニ付
伺書面

天明八申年二月

江勘定奉行ゟ

武家方ゟ代官所
甲列八代郡末木村
百姓
六右衛門
妻

右

六右衛門

弐拾枚

同拾枚

右

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

右之者共元主人石
幸二分書面之通為届出候
以上

天明八申年六月

江川之帝元海口代官所
豆刈加茂郡妻良村
枝々之名
百姓
五帝云蔵

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

右之通可差下候以
上
七月

同人就
代　七

跟式拾枚

右傳次帝俄而右奉行仕ル仁付書面之通

天明八申年七月

此節定奉行右

与野江帝乃出代官布
丹後國竹野郡右泉村
百姓
傳次帝

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

寛政二戌年三月

根澤肥前守

曲剛甲斐守

云酉年云事方諸吟味相未詰方格別

掛取ハ従前定不留役組限一同出精

取計候一従子年云油断精出云

以招可致者可令中渡い

寛政二戌年三月

天目台ニ

去年中留守居参会ニ而被
有之変近親類ニ而留守居
右躰参会同招ニ席ニ而
先招ニ而有之習ニ

寛政二戌年三月

町奉行所

奉行所与力
安藤帯刀
組与力

右之者共訴之儀ニ付内々吟味之儀ハ依之吹聴
聞之為今武拾両ツゝ被下之候事

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

寛政二戌年六月

勘定奉行ヨリ

青木兵庫

作右衛門父権之丞同組ニ而

先達而申渡候雖ニ

為ニ御暇生涯ニ相抱公ニ

候ニ付申渡候旨

御免旨ニ

作出ル右ニ候

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

可京中渡

六月

寛政三亥年九月

寺社奉行

大佛師

大式

銀弐拾枚

蓮光院様位牌出用

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

寛政七乙卯年七月

毎年十月自分共方江参
詫文皆遣之節々江者参
銘々江者参出ル江者不
年番ニ而ハ自分共之内ニ而
年番ニ而ハ不遣名ニ而ハ一通
年番之方江ハ一ヶ所ニ者参

一方ニ書ル所ノ證文ニテ証拠書ニ
差出シ候ニ付テハ其節ニ名前未證ニ書ル
候通ニ名前未證ニ書ル所ノ
可書ル所ノ

一切支丹類族ニテノ有ニ向ヨリ生死
其外吳変ニ候有ニ付テハ毎年七月十二月
毎度連書ニ書ル所ノ證文ニ
差出シ候ニ不及生死其外吳変ニ候有ニ付テハ
毎年十二月ニ度帳書ニ通名前ニ
未證年書ニ方ニ年号又一通ニ書ル所ノ

右ニ通ノ外ニテ書ル所ノ當年ニ新帳ノ
年番ニ心得ノ當ノ同人方ニ

松浦靱負

岡部出羽

子四月

寛政六寅年七月

大月朔日

増上寺

文昭院様　　佛靈前

依而奉献香華如件

寛政九巳年九月

寺社奉行

明後六日之時刻業山
御宮ゟ御使ニ心得ニ

所職之義至可宜之事

九月廿日

寛政九巳年十二月

孝社奉行

紅葉山

常憲院様

有徳院様 御靈屋造営

造用並ニ後中堂

御勝手向ニ被用候

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

心を用勤ゑ〻上出〻者ハ取立
其度〻可申候ハ勿論之事ニ候
正道競ひハ物教育専要之事ニ候右之趣
令達候方〻ハ厚を加勤意を以被使候
可被致候

寛政十年午年八月

来ル廿日東叡山
大猷院様
御霊前ニ諸余諸侯御使被
被遣候節
波門院様御法会ニ被遣候ニ付余諸
不和成者ハ戸田采女正ニ可被仰付候事

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

八月十三日

享和二戌年七月

口達之覚書取

腰妊ム女中今朝流産ニ付来ル九日迄

ム日

御流産穢ニ付

文化元子年六月

加勘定奉行
加代官
羽倉権九郎子附
加番格設楽
高橋小左史

右之者父母之喪ニ付
幸之助養子ニ被仰付候
段申聞候ニ付

文化三寅年十月

出勤寺社
壱人
出勤吟味役
壱人

右ハ琉球人江暇被下置候節

御本丸相渕西丸小姓
大炊助殿御作渡山委山委而之候を
於西丸御下屋山伺之上
御達山可申上
仙石次左衛
黒川孝市

文化四卯年三月

江勘定奉行衆
野村左兵衛
上川源右
石谷逸八後家

右之川後数年奥帯を当男拓に春秋を

そ一其上証度拠をこの志盗賊をとり
押へ出拠未女そ男ともに健康そ仕候こ有
為に褒美下持そ田畑永代そ下年貢
諸役免除そ上金五拾両そ下

相守以依之仁枝持方三人枝持之下筒字

汗免許　仰付之

文化七年午ノ月

是迄對馬守江差出候諸願并筒分月番之

老中江差出可申旨向江ハ達之事

文化七年庚午四月

大目付ゟ

一諸大名其外ゟ對馬守
書状ゟ返礼病中滞
留急度奇ゟ不達

文化七年十月

北勘定奉行
浅草北荒木代
添役清水
助左代
新井孝英

右之者勤方宜之上又毎日孝心をそ

ひ通相守奉物之事之如
文化七年午十二月

寺社奉行

報三拾枚

大佛師

少進

香林院板沙位牌御用お勤ひ候ニ付て

文化十酉年二月

今度日光御門跡上京ニ付道筋当中之伝
御用ニ而

服仮中勢大浦

仰付度由ニ而可有来ル

文化十酉年七月

寺社奉行

日光
御宮内別當
大樂院

旧臘境内承仕長屋より出火之別訴
為供廟下類焼及焼失候旨

中分明ならざる処有之候ては不相済事に候間
若相応仰分も候ハヽ

文化十四年七月

寺社奉行

日光
御宮之別当
大楽院

右之別当高職被成
可申上旨執達也

御免ハ極日光之門跡ニ

文政三辰年十一月

明十五日出礼之
右大将様
御本丸ニ被為
成出仕之面々ニ罷出ニ不及旨其旨
可被達候

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

十一月十四日

文政六年未二月

覚

旅行之節若酒食ニ而も
有之ハ勿論於宿駅人馬賃之外
決而不受取申間敷候
酒食ニ而も

一於宿駅未納之人馬不審為継遣之
荷物ニ而も費用取不ニおゐてハ一同ニ取扱
之事

一於宿継荷物ニ銭費用ハ人馬
賃銭共ニ前ニ請取之人馬ニも
而ハ相渡ス人馬ニおゐて撰為持遣之事ニ
賃銭持主ニ人数ニ応ニお渡し又ハ預人ニ
ハ渡ス人馬ニ而も不審為ニ銭費用ハ請取
賃目次第ニ銭ニ而可渡ス賃銭ニ
節ニ付為心得申達置之事

午二月

文政六年癸未八月

平日
御城ニ詰合ハ此後人ニ
相越ハ面ニ
還御ハ後
御城ニテ
御差添ニ付而ハ
御面ニテ不及其段ハ

大久保加賀守殿江御状
六月十六日

文政六未年四月

大目付

年日

御城ニ詰合ノ内ノ役人ヲ内明十七日紅葉山
相越ノ面々
還御ノ後

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

御城ニ召出ル右之向ニ而も
御奏者ニ而召出ル面々共ニ不及ル事

文政九戌年九月

寺社奉行

明後廿一日六半時紅葉山
御宮江　御使之心得ニ而
御城江罷出可申達之事

寺社奉行一人

九月十九日

文政十亥年五月

寺社奉行

蓮明院

幽洞

右高野行人方相対差遣院跡可否申渡ル

文政十亥年閏六月

上野
常憲院様　有徳院様　孝恭院様

御仮殿仮二天門前ヨリ東ノ方ニ付諸末寺
共ヨリ門前ヨリ弐丁ノ間程
共ヨリ門前ヨリ弐丁ノ間程
多前ニ而人数ハ減石連ハ拍子ニ而

達ル

同六月

文政十一子年十月

香琳院様後 帝位ニ
帝名代有之 節
ニ通

帝ニ面ニ差亜可申
事

天保四巳年八月

勘定奉行
代官
池田仙九郎
兼帯被仰付
高橋古助

右之者父母之喪心を尽し孔子哀特之
幸之旨尊慮之趣可被

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

天保二巳年十一月

旧勘定奉行石

高木作左衛門旧代官所
肥後国
天草郡佐伊津村
百姓
石本平兵衛

右平兵衛後年之事ニ而百石宛之御墨

品之事特之取扱
永之掌刀　帥免旦兵庫之名乗
仁年貢諸役免除可申渡旨

天保二巳年十一月

仁勘定奉行

高木能先守仁代官
恥渡國
天草郡佐伊津村
百姓
右衛門

右今度仁勘定奉仁用達中有仁取持方

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

三人扶持之下山百其後何之中渡山

天保五年二月

支山　御霊屋之節ハ
御代拝并ニ御使被頼ハ大奥女中
衆扣ニ而通ル中ニ遠ク通ル向ニ而ハ
衆扣ニ而通ル向ニ而ハ遠ク通ル節
右拝ミ後ニ而ハ拝ミ候ニ及ハ寄ニ而相違旨

出羽守屋形沙汰之事

二月

村上大和守

山名右衛門尉

天保六未年閏七月

江戸勘定奉行

根岸肥前守

大目付

大草能登守

根岸鎮衛著

辻 傳右衛門

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

右之者共常之御用向格別出精相勤
候ニ付其身一代帯刀
御免被仰付候間可被申渡候

秋田左京亮

天保七申年三月

寺社奉行

年以上礼儀楽人惣代ハ向之者奏楽之節
者百加ハ二分宛ハ
曲地相渡ハ受取翌日より奏楽
相勤ハ曲日之一月銀十九匁宛之積ニ

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2
ガラス使用

而後如奈之上於彼地令下知基候

可為中後外

天保八酉年六月

内藤隼人正

水野壱岐守殿
房列安房就
上里原村百姓
文兵衛
まで

報三十枚

右之文の文太郎兄文義彼盗賊

安次帥た免こ献文献しからくは雲おこて
牙分こ而こ献文はをも不献盗紙を知国は
拓未参物て事こ付為江慶英こ下は百
甚候可申中渡は宏こ下根そ江納戸候
相談可申請免は

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

817
2
2

国立国会図書館　　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天保集成除撰 2巻』 請求記号 817-2

ガラス使用